

「うた乃」春の管理について(3月19日現在) **New!**

農業研究所にて9月24日に定植した「うた乃」(9cmポット、二次育苗法)では第2～3次腋果房(3～4番)が収穫中です。草丈は25cmを超え、葉が盛んに展葉し始めてきました(写真①、②)。

第2次腋果房(3番)の先青果、縦溝果、空洞果等の発生は少ない状況ですが、厳寒期に比べると一部で発生が見られます。

気温の上昇にともない果実の傷みが出やすい時期になってきました。完熟になると黒ずんだ果実になり、傷みやすくなります。涼しい時間帯に収穫を行うとともに、最高気温27℃を目標に換気してください。高温対策の遮光ネットや遮光・遮熱剤の塗布も有効です。また、アザミウマやハダニ、アブラムシにも注意してください。

芽数については、基本2芽管理、増えても3～4芽以内に抑え、株あたりの果房数が多くなった場合はしっかり摘果を行ってください。味落ちがしやすい時期でもありますが、摘果をしっかりすることで糖度の低下を抑えることができます。

【参考】農業研究所での給液管理は、3月から1日7分(朝4分、昼3分、約260ml/日/株)で、給液濃度は約0.5～0.55mS/cm程度です。



写真①：株の様子



写真②：果実の様子



写真③：2芽株の様子

「うた乃」生育状況(農業研究所3月19日撮影)